

「中国の特色あるリベラルな国際秩序」？ 習近平政権による人権外交と 「人類運命共同体」のリンケージ

山崎周

(青山学院大学総合研究所助手)

【要約】

本稿は、習近平政権下の中国による人権外交とグローバル・ガバナンスの理念である「人類運命共同体」のリンケージについての考察を行う。2017年以降、中国は、国連人権理事会（UNHRC）の決議の中に「人類運命共同体」の文言を盛り込むための外交活動を活発化させている。マクロな視点から見ると、この背景には、中国のような台頭する大国が国内秩序と国際秩序の在り方を合致させようとするダイナミズムがあり、そのために中国は人権外交を加速させている。中国政治の文脈からすると、「人類運命共同体」は習近平個人の政治的な権威や威信にも関わる性質を帯びていることから、中国政府にはその理念を習のレガシーとして残す意向を国内外に向けてアピールしたい思惑もある。

今後の中国は、冷戦後のリベラルな国際秩序の改革を目指していくことになるだろう。本稿の議論からは、中国が「中国の特色あるリベラルな国際秩序」の構築を試みるシナリオを想定することができる。

キーワード：人権、人類運命共同体（人類命運共同體）、グローバル・ガバナンス、国連人権理事会（UNHRC）、リベラルな国際秩序

一 はじめに

習近平政権の発足以降の中国は、グローバル・ガバナンスへの取り組みを強化する姿勢をこれまで以上に見せるようになってきている。グローバル・ガバナンスへの関与自体は、以前から政策上重視されてきた。例えば、習近平政権以前の時代においても、中国は世界経済の課題や国連を中心とした集団安全保障体制に関わる問題、あるいは気候変動問題といったグローバル・ガバナンスの分野に関与していた¹。それでも、習近平政権になってからの中国が、グローバル・ガバナンスを重視する方針をより高く掲げるようになってきていることもまた確かである。とりわけ、2015年9月に習近平が第70回国連総会で行った演説後から、「人類運命共同体（人類命運共同体）」が中国のグローバル・ガバナンス政策における新たなキーワードとして現出したことは注目に値する²。この「人類運命共同体」の重要性を更に象徴するのは、2018年3月の第13期全国人民代表大会において憲法改正が決定された際、その前文に「人類運命共同体」が追加されることが承認され、実際に明記された出来事であった³。

グローバル・ガバナンスにおいて、人権問題は中心的な課題であるが、新興国でもある中国にとり、人権問題は自国の国内政治体制

¹ 太田宏「グローバル・ガバナンスと中国：胡錦濤時代と国際公共財のガバナンス」平成24年度中国研究プロジェクト『政権交代期の中国：胡錦濤時代の総括と習近平時代の展望』（日本国際問題研究所、2013年）、113～134ページ。

² 習近平『習近平国政運営を語る 第二巻』（外文出版社、2018年）、577～583ページ。

³ 「中華人民共和國憲法」中華人民共和國中央人民政府、2018年3月22日、http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content_5276318.htm。

の安定や正当性を脅かしかねないイシューでもある⁴。1989年6月の天安門事件の後から、米国が中国共産党を頂点とする社会主義体制を瓦解させるために、人権問題を政治的に利用するようになったと中国側は認識するようになったことから、中国共産党にとって人権問題は安全保障上の脅威になった⁵。今日においても、米国が人権問題を利用して自国の発展を阻害し、体制を脅かそうとしているという中国側の基本認識は変わっておらず⁶、2019年になってから先鋭化した香港問題についても、中国は米国が人権を口実としながら自国への内政干渉を図り、対中封じ込めを狙っていると糾弾している⁷。また、2000年代後半からの中国は、自らの台頭によって自信を深めたこともあり、他国からの人権状況の改善に関する要求に反発を強めるようになっただけでなく、国内の人権活動家や弁護士にも強圧的な措置をとるようになるなど、国際的な人権レジームに抵抗する動きを見せるようになってきた経緯がある⁸。

他方、中国の人権に対する認識は静的なものではなく、そこには変化も生じてきた。中国共産党の機関紙『人民日報』の1989年から2015年までの記事をデータ分析した研究によると、1990年代か

⁴ 納家政嗣「新興国台頭とグローバル・ガバナンス」平成23年度外務省国際問題調査研究・提言事業『新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来』（日本国際問題研究所、2012年）、10～11ページ。

⁵ Denny Roy, “Human Rights as a National Security Threat: The Case of the PRC,” *Issues and Studies*, Vol. 32, No. 2 (February 1996), pp. 65–81.

⁶ 「外交部、人権問題を用いた中国の発展への米国の妨害は徒労に終わる」『人民網（日文版）』2016年4月15日、<http://j.people.com.cn/n3/2016/0415/c94474-9045148.html>。

⁷ 新華社評論員「美國霸權只會讓我們更加衆志成城」『新華網』2019年12月4日、http://www.xinhuanet.com/2019-12/04/c_1125308501.htm。

⁸ 吉川純恵『中国の大国外交への道のり：国際機関への対応をめぐる』（勁草書房、2017年）、129～131ページ。

ら 2000 年代初頭の江沢民時代を通じて、中国政府は人権を自らの体制にとっての脅威と捉えていたことから、その概念をネガティブな意味合いを持つものとして非難する傾向が強かった。しかし、胡錦濤政権時代に移ると、人権は中国共産党が執政政党として自国民に保証する権利として、党及び政府の統治能力を宣伝する上で使われる概念となった。それに加え、この時期から、人権とグローバル・ガバナンスとの関係性についても論じられるようになったのである⁹。ソフト・パワーの向上にも力点を置くようになった胡錦濤政権時代から、中国は人権に関わる外交活動を本格化させるようになったと言える¹⁰。

そして、以下で論じるように、近年の習近平政権下の中国は、人権分野での外交活動を従来にも増して活発に行うようになってきているのである。それでは、なぜ、習近平政権下の中国は人権外交を活性化させるようになったのであろうか。

本稿では、2017 年以降の国連人権理事会（UNHRC）における中国の動向を主な分析対象としながら、最近の中国による人権外交に関する考察を行う。とりわけ、2017 年から、中国の人権外交がグローバル・ガバナンスの新しい理念である「人類運命共同体」と結びつくようになった事実に着目する。「人類運命共同体」は、習近平政権の対外政策の理念として最も強調されているものの 1 つである。しかしながら、これまでの中国による人権外交の分析においては、中国の人権外交と「人類運命共同体」の関係性について十分な

⁹ Titus C. Chen and Chia-Hao Hsu, “Double Speaking Human Rights: Analyzing Human Rights Conception in Chinese Politics (1989–2015),” *Journal of Contemporary China*, Vol. 27, No. 112 (February 2018), pp. 534–553.

¹⁰ Sheng Ding, “Is Human Rights the Achilles’ Heel of Chinese Soft Power?” *Asian Perspective*, Vol. 36, No. 4 (October–December 2012), pp. 641–665.

考察がなされてはいない¹¹。したがって、以下では、中国による人権外交と「人類運命共同体」のリンケージを明瞭にしつつ、近年の中国が UNHRC での活動に傾注するようになった動機やメカニズムを解明していくことにする。

なお、本稿の議論を進めていく前に、中国による「人権外交」とは何かを定義すべきであると考えられる。端的に言えば、中国が主張する人権とは、個人ではなく社会全体を優先にしながら、政府がトップ・ダウン形式で自国民に与える権利であり、西欧諸国における人権の概念とは大きく異なるものである¹²。以下では、西欧諸国とは異なる人権の概念を国際的に普及させるために中国が行う二国間または多国間の枠組みにおける外交的な取り組みを同国による「人権外交」の定義とする。

簡潔に本稿の議論をまとめると、国際関係のダイナミズム及び国内政治の文脈を背景としながら、近年の中国は主として UNHRC での人権外交を以前と比べて一段と能動的に推進するようになっている。また、本稿の議論からは、将来の「中国の特色あるリベラルな国際秩序」の形成についての示唆を得ることができる。

本稿は、この冒頭部と最後の結論部を除く次の4部構成になっている。第2節においては、習近平政権下の中国が人権外交を強化している理由を明らかにする。第3節は、最近の中国が国内外に向け

¹¹ 例えば、後記のテッド・ピッコネ (Ted Piccone) は、中国の UNHRC における最近の活動に焦点を当てつつ、同国が「人類運命共同体」を打ち出すようになったことにも言及しているが、「人類運命共同体」の理念が UNHRC で強調されるようになったことを分析対象の重点にはしていない。Ted Piccone, *China's Long Game on Human Rights at the United Nations* (Washington D. C.: The Brookings Institution, 2018).

¹² 吉川純恵、前掲書、111～114 ページ。

て人権問題に取り組む姿勢を見せていることを示す概要である。第4節では、中国の人権外交と「人類運命共同体」のリンケージについて説明する。第5節において、2017年以降の UNHRC における活動を取り上げながら、中国の人権外交と「人類運命共同体」のリンケージに関する経緯を確認する。結論部では、「中国の特色あるリベラルな国際秩序」について論及したい。

二 習近平政権が人権外交を加速化させる諸要因

2017年頃から、習近平政権下の中国が UNHRC における人権外交を活発化させるようになったことが国際的な関心を集めている。テッド・ピッコーネは、2016年から2018年までの UNHRC における中国やその他の加盟国の投票行動を分析した。ピッコーネは、習近平が最高指導者になってからの中国が UNHRC で自国の主張を強めるようになっており、そのことは同国が国際的な人権のシステムのルールを再形成しようとするようになってきている表れであると論じている。近時の中国は、以前と違って人権問題において防戦一方ではなく、むしろ能動的に人権の再解釈を行い、自らの経済的な影響力を活用しながら各国に対して硬軟のアプローチを駆使するようになっていくとも述べている¹³。リンゼイ・メイズランド (Lindsay Maizland) も、習近平政権になって以来、中国が UNHRC などでの外交活動を活発化させ、他の権威主義的な体制を敷く国家からの賛同を取り付けつつ、自国内における人権侵害を繰り返し行っていると警鐘を鳴らしている¹⁴。国際危機グループ (International Crisis

¹³ Ted Piccone, *China's Long Game on Human Rights at the United Nations*.

¹⁴ Lindsay Maizland, "Is China Undermining Human Rights at the United Nations?" *Council on Foreign Relations*, July 9, 2019, <https://www.cfr.org/in-brief/>

Group) も、UNHRC における中国の活動が近年になって活発化していることを指摘している¹⁵。それと同様、やはりヒューマン・ライツ・ウォッチ (Human Rights Watch) も、2017年以降の中国が UNHRC など自国に対する批判を抑えるために様々な妨害活動や対外宣伝を行うようになってきている現状を報告している¹⁶。

習近平政権が人権外交を加速化させるようになった理由については、以下の4つを挙げる事ができよう。

一点目は、大国としてのパワーや地位の向上、自信の深まりである。習近平政権になってから、中国国内の人権状況の更なる悪化が指摘されるようになってきている。それにもかかわらず、中国政府は国内での人権弾圧を強めているが、その背景には大国としての台頭がある。習近平政権下の中国は、自国のパワーや国際的な地位の高まりを自信としながら、人権問題に関する他国からの批判を押しつけ、あくまで中国共産党による政治体制維持を最優先にし、国内で強権的な統治を推し進めている。他方で、国際レジームや他国との間での人権外交を同時並行的に行いながら、大国としての地位を自負する中国が西側諸国からの圧力に抗っている現実がある¹⁷。また、2018年6月の米国のドナルド・トランプ (Donald Trump) 政権による UNHRC 脱退は、人権問題における中国の影響力を高める

china-undermining-human-rights-united-nations.

¹⁵ International Crisis Group, *Council of Despair? The Fragmentation of UN Diplomacy* (New York/Brussels: International Crisis Group, 2019), p. 8.

¹⁶ Human Rights Watch, *The Costs of International Advocacy: China's Interference in United Nations Human Rights Mechanism* (New York: Human Rights Watch, 2017).

¹⁷ Rana Siu Inboden, "Human Rights under Xi Jinping," in Hoo Tiang Boon ed., *Chinese Foreign Policy under Xi* (New York: Routledge, 2018), pp. 174-188.

結果につながったという見解もある¹⁸。

二点目は、中国の主張する人権が経済的な発展によって担保されるという論理である。中国政府は、貧困からの脱却が優先すべき課題であり、生存権と発展権こそが最重要な人権であるとしている。発展を遂げることによってはじめて、経済、社会、文化的な権利が各人にもたらされることになる。つまり、発展すればするほど中国の人権状況は向上するという論理が出来上がる。また、その論理に基づけば、発展を遂げてきた中国の国内人権状況の改善を対外的に正当化できることになる。発展権や生存権こそが最大の人権という前提からすれば、経済大国となった習近平政権下の中国は、自国の人権状況やその概念を他国に対しても高唱できる。例えば、2016年12月に国務院が刊行した『発展権：中国の理念、実践と貢献』という政府白書の内容は、まさにこのような中国の人権に対する考えを反映しており¹⁹、後述の2019年9月に出された『人民のための幸福の追求：新中国の人権事業発展の70年（為人民謀幸福：新中國人權事業發展70年）』と題する政府白書においても、やはり同様の主張が繰り返されている²⁰。

三点目は、世界的に国際秩序が揺らいでいるという懸念が広まっていることから、新しい国際秩序のヴィジョンを提示する上での好機が到来しているという認識である。王毅国務委員兼外交部長は、

¹⁸ Kristine Lee, “Coming Soon to the United Nations: Chinese Leadership and Authoritarian Values,” *Foreign Affairs*, September 16, 2019, <https://www.foreignaffairs.com/articles/china/2019-09-16/coming-soon-united-nations-chinese-leadership-and-authoritarian-values>.

¹⁹ 「発展権：中國的理念、實踐與貢獻」中華人民共和國中央人民政府、2016年12月1日、http://www.gov.cn/zhengce/2016-12/01/content_5141177.htm。

²⁰ 「為人民謀幸福：新中國人權事業發展70年」中華人民共和國國務院新聞辦公室、2019年9月、<https://www.scio.gov.cn/zfbps/32832/Document/1665072.htm>。

世界経済の低迷や国際情勢の不安定化のため、新たな政治的なリーダーシップや行動が求められるようになっており、中国はグローバル・ガバナンスに貢献し、様々な問題の解決に向けた取り組みに携わることができるとする。そして、2017年1月の習近平による「人類運命共同体」構築の提唱は、まさにそのような国家間での協力やグローバル・ガバナンスの方向性を示したものであると述べているように、中国は国際秩序に関する新しいヴィジョンを提示しようと試みるようになってきている²¹。

四点目は、人権問題に纏わる先進国と途上国の間で生じている摩擦である。中国は、先進国と途上国との間で人権を巡る認識の齟齬などがあり、自国の立場は途上国のそれと同様であることから、人権問題において途上国側に与する姿勢を見せてきた²²。2018年9月に行われた中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）で出された『北京行動計画（2019-2021年）』では、国連の場などにおける両者の人権問題に関する国際的な協力の推進がうたわれており、中国がアフリカ諸国と人権問題で足並みを揃える姿勢が再確認されている²³。

これら4つの要因が重なり合うことによって、習近平政権下の中国が人権外交を推し進めるようになってきていると言える。

²¹ 王毅「進入新時代的中國外交：開啓新航程 展現新氣象」『國際問題研究』（北京）第1期（2018年）、頁2～3。

²² 中国が先進国と途上国との間での人権についての問題をどのように見ているのかについては、例えば次のものがある。「發展中國家與西方國家在人權問題上有哪些主要分歧？」『中國人權』2014年6月12日、http://www.humanrights.cn/html/2014/rqzs_0612/498.html。

²³ 「中非合作論壇：北京行動計劃（2019-2021年）」中非合作論壇、2018年9月5日、<https://www.focac.org/chn/zywx/zywj/t1592247.htm>。

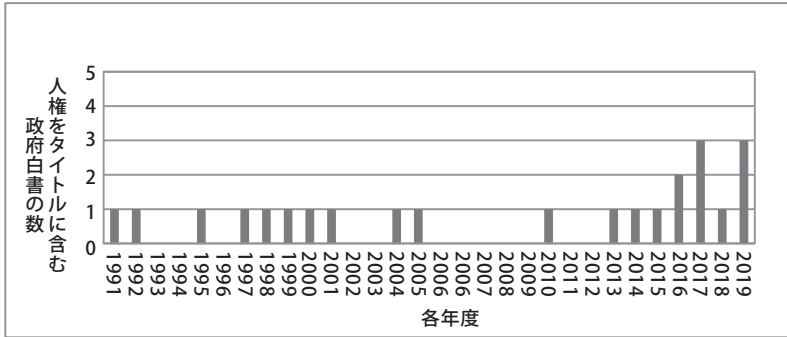
三 習近平政権と中国の人権をめぐる国内外の動向

習近平政権による人権問題への取り組み重視は、国務院が刊行する政府白書から把握することができる。1991年以降、国務院は政府白書を刊行するようになったが、1991年に刊行された最初のもは、中国における人権状況に関する内容であった²⁴。このことは、天安門事件後当時の中国政府が人権問題に機敏であっただけではなく、同問題の政策上の優先順位が極めて高かったことを意味している。

では、習近平政権は人権に関する政策をどのようにして重視しているのだろうか。図1が表しているように、江沢民及び胡錦濤政権下の1991年から2012年までの間、人権をタイトルに含む政府白書は合計で11件刊行された。しかし、習近平が国家主席に就任した2013年以降、毎年人権をタイトルに含む政府白書が刊行されるようになってきている。1991年以降の計22個の人権をタイトルに含む白書のうち、実に半数の11個が習近平政権になってから刊行されているのである。このことから、習近平政権が国内外に向けて、中国の人権状況や政府による取り組みを積極的に周知しようとするようになってきていることが分かる。近年においては、中国語版に加えて英語版の政府白書も刊行されるようになっており、中国国内の人権状況についての対外発信体制が補強されている。

²⁴ 「中國的人權狀況」中華人民共和國國務院新聞辦公室、2000年1月20日、<https://www.scio.gov.cn/zfbps/ndhf/1991/Document/308017/308017.htm>。

図1 人権をタイトルに含む国務院の政府白書の数



(出典) 中華人民共和國國務院新聞辦公室、<https://www.scio.gov.cn/zfbps/>、2020年2月8日時点。

対外政策面においても、習近平政権下の中国は人権外交を推進しており、その成果を国内外に誇示している。その好例は、2018年2月に出版された『中国の人権の新たな成果（2012-2017）（中国人権新成就）』である。同書は、外交部国際局が主編者を務めていることや外交部傘下の世界知識出版社から刊行されていることから、外交部が主体となって企画されたと見られる。また、同書には、王毅外交部長が序言を寄せており、習近平が中国共産党総書記に就任した2012年から2017年までの間の「中国の特色ある人権の発展の道」の成果を強調している²⁵。それに加え、習近平が提起した「人類運命共同体」が国際社会で広範な支持を得ただけではなく、UNHRCで2度にわたって他国による中国の内政干渉の企てを阻止し、2012年から2017年までの間に20カ国以上の国と50回余

²⁵ 王毅「沿着中國特色人権發展道路繼續前進：『中國人権新成就（2012-2017）』序言」中華人民共和國外交部国際局主編『中國人権新成就（2012-2017）』（北京：世界知識出版社、2018年）、頁1～13。

りの人権対話などの成果を挙げたと記しながら、それらを外交的な業績として挙げている²⁶。なお、同書には、中国共産党幹部や中央政府の部長級の高官からも中国の人権に関連する論文が寄稿されており、同国が一体となって人権への取り組みを実施していることが強調されている²⁷。

習近平政権下の国内人権状況を宣伝する上での集大成とも言える公式の文書が、上述の2019年9月に発表された『人民のための幸福の追求：新中国の人権事業発展の70年』である。題名の通り、同白書は、1949年建国以来の中国の人権問題への取り組みとその成果を自賛する内容である。この中では、中国の人権状況の改善に関する歴史に関して、第1期の1949年の建国以降、第2期の1970年代末の改革開放以降、そして第3期として習近平が最高指導者に就任した2012年の中国共産党第18回全国代表大会以降という3つの区分が行われているが、そこからは、習近平政権下において国内の人権状況に目覚ましい進歩があったというメッセージを誇示したい思惑が見受けられる。また、従来 of 主張を踏襲した形で、生存権と発展権こそが最も重要な人権であり、特に人権を実現する上での最大の障害は貧困であることから、貧困を克服して生存を確保し、国内での発展を遂げることによって、はじめて自国民に各種の権利

²⁶ 同上、頁3。

²⁷ 本書の執筆に携わっているのは、次の中国共産党及び政府組織などであり、近年の中国が人権を重視する姿勢を体現している。最高人民法院、最高人民検察院、中国共産党中央委員会宣伝部、統一戦線工作部、全国人民代表大会常務委員会法制工作委員会、外交部、教育部、工業和信息化部、国家民族事務委員会、公安部、民政部、人力資源和社会保障部、環境保護部、住房和城郷建設部、国家衛生和計画生育委員会、国家宗教事務局、国家信訪局、國務院扶貧開發領導小組弁公室、中華全国総工会、中華全国婦女連合会、中華残疾人連合会、中国社会組織国際交流協調管理弁公室、中国蔵学研究中心。

を保障できるようになるという中国政府の主張が改めて強調されている。更に、近年、「人類運命共同体」の理念に対しては国際社会から多くの反響があり、何度となく UNHRC などの決議の中に「人類運命共同体」が盛り込まれるようになったとの記述もある²⁸。

実際の人権外交においても、中国が他国からの批判を封じ込めることに成功しているとも言える事例がある。2018年になってから再燃したウイグル問題については、トルコを例外として、中国はアラブ諸国から批判を受けていない。そのトルコによる批判も一時的かつ抑制的であり、西側諸国と比較すると、総体としてアラブ諸国の中国に対する姿勢は厳しいものではない。アラブ諸国の多くの国民がウイグル族と同様にイスラム教を信奉しているにもかかわらず、中国への非難が勢いを欠く背景には、アラブ諸国が中国との外交や経済関係を再優先にしている事情がある。そのことは、中国による対外政策上のアプローチが効果を発揮していることを示している²⁹。この事例は、中国が人権問題で西側諸国から圧力を受けやすい一方、途上国からは批判されにくい構造の象徴であろう。

以下で論述するように、2017年以来、中国の人権外交は「人類運命共同体」というグローバル・ガバナンスに関する言説と結びつくようになってきている。中国による人権外交は、新しい段階に入ったとも言える。

²⁸ 「為人民謀幸福：新中國人權事業發展70年」中華人民共和國國務院新聞辦公室。

²⁹ Roie Yellinek, “Islamic Countries Engage with China against the Background of Repression in Xinjiang,” *China Brief*, Vol. 19, No. 5 (March 2019).

四 中国による人権外交と「人類運命共同体」のリンケージ

習近平政権になり、中国は新しいグローバル・ガバナンスの理念として「人類運命共同体」を打ち出すようになった。その理念の一部である「運命共同体」という表現自体は目新しいものではなく、既に胡錦濤政権時代に用いられていた他、2013年の時点で習近平自身が言及したこともある³⁰。

「人類運命共同体」が大々的に喧伝されるようになった発端は、2015年9月の第70回国連総会における習近平による演説であった。「人類運命共同体」の中身は非常に曖昧である一方、その言葉は、中国がグローバル・ガバナンスに深く関与する意向を表している。それと同時に、「人類運命共同体」は、途上国の首脳との会談の際や国際機関の場で言及される傾向にあり、特に途上国との関係を念頭に置きながら、中国は「人類運命共同体」をスローガンとして選択的に用いている。そのことは、先進国よりも、途上国との間の方が国際的に協力できる共通点を多く有しているという中国側の見方を反映していよう³¹。

更に、「人類運命共同体」には、中国が自国内の規範や価値を国際秩序に投影させる意図も包摂されている。中国のグローバル・ガバナンスに対する考えと内政面での理念は一致していることから、中国のグローバル・ガバナンスへの関与は、同国の内政面における

³⁰ Denghua Zhang, “The Concept of ‘Community of Common Destiny’ in China’s Diplomacy: Meaning, Motives and Implications,” *Asia & the Pacific Policy Studies*, Vol. 5, No. 2 (May 2018), p. 197.

³¹ *Ibid.*, pp. 198-199.

理念を国際社会にまで延伸させることを意味するのである³²。グローバル・ガバナンスの理念としての「人類運命共同体」の登場は、熾烈な大国間競争という環境の下で、自国内部の規範を国際秩序にまで投影させ、国際秩序と国内秩序の在り方を合致させようとする台頭国 (rising power) の行動パターンと軌を一にする³³。中国が自ら解釈した人権を国際的に普及させようという狙いは、そのようなマクロな観点から理解することができる。

そして、人権外交と「人類運命共同体」のリンケージは、2017年前後から見られるようになった。既述の2016年に刊行された『発展権：中国の理念、実践と貢献』の中では、生存権と発展権こそが最重要な基本的人権であるとされ、また貧困が人権を実現する上で最大の障害と位置付けられた。それだけではなく、この政府白書においては、人権問題に関連した文脈で「人類運命共同体」を構築する方針が初めて明記され、それ以降の人権に関する政府白書でも、「人類運命共同体」の構築が継続的に言及されるようになる³⁴。

その上、2017年1月に習近平が国連欧州本部で行った「共に人類の運命共同体を築こう」という演説の後から、中国は「人類運命共同体」を殊更にアピールするようになるが、これを機として、中国による人権外交と「人類運命共同体」が本格的に組み合わされることになった。実際にその演説の中で、習は、人権が「人類運命共

³² 阮宗澤「構建人類運共同體助力中國戰略機遇期」『國際問題研究』（北京）第1期（2018年）、頁19。

³³ Charles A. Kupchan, “Unpacking Hegemony: The Social Foundations of Hierarchical Order,” in G. John Ikenberry ed., *Power, Order, and Change in World Politics* (Cambridge; Cambridge University Press, 2014), pp. 19–60.

³⁴ 「発展権：中國の理念、實踐與貢獻」中華人民共和國中央人民政府。

同体」の中の1つの構成要素であることを明言しているのである。習は、「中国は自国の国情の発展に符合する道を歩むことを堅持し、常に人民の権利を最優先に、絶えず人権を促進、保護している。中国は十三億余りの人口の衣食の問題を解決し、七億余りの人口を貧困から脱却させたが、これは世界人権事業に対する大きな貢献である³⁵」ことを強調して、発展こそが同国にとっての人権の核心であることを改めて教示したのであった。この演説をきっかけとして、人権外交と「人類運命共同体」のリンケージが顕著になったのである。

事実、その翌2月には、後にも言及する王毅外交部長による論文「共に人権を促進及び保護し、手を携えて人類運命共同体を構築しよう」が『人民日報』紙上に掲載されたように³⁶、既述の2017年の習近平による演説以後、中国による人権外交と「人類運命共同体」のリンケージが明白になる。

以上のように、2017年に入ってから、中国の人権外交と「人類運命共同体」が結びつくようになった。次節では、主に2017年からのUNHRCにおける中国の活動に焦点を当てつつ、同国が人権外交と「人類運命共同体」のリンケージを試みるようになった経緯を探る。

³⁵ 習近平、前掲書、頁606。

³⁶ 王毅「共同促進と保護人権 攜手構建人類運命共同體」『人民日報 國內版』（北京）、2017年2月27日、頁21。

五 2017年以降の UNHRC における中国の人権外交と「人類運命共同体」

2017年2月10日、第55回国連社会開発委員会（ECOSOC）の会議で、アフリカの発展に関する決議が全会一致で通過したが、その中に「人類運命共同体」の構築についての文言が入った。国連関連の組織の決議の中で「人類運命共同体」が盛り込まれたのは、これが初めてであった。『人民日報』は、この決議を受けて、同年1月の国連欧州本部における習近平の演説以降、「人類運命共同体」が理念として国際社会で幅広く認知されるようになっただけではなく、ECOSOCの決議の中に「人類運命共同体」が明記されたことは、中国のグローバル・ガバナンスへの大きな貢献を示していると報じたのであった³⁷。表1の通り、これ以降の中国は、国連関連の組織の決議の中に「人類運命共同体」の文言が明記されたと強調しながら、そのことを国内外に喧伝する態勢をとるようになる。

³⁷ 李秉新、殷森「『構建人類運命共同體』首次寫入聯合國決議」『人民日報 國內版』（北京）、2017年2月12日、頁3。

表1 中国が「人類運命共同体」を盛り込んだとする国連関連の組織の決議

組織名	決議名（採択年月）
国連社会開発委員会 (ECOSOC)	「アフリカの発展のための新しいパートナーシップの社会的側面」(2017年2月)
国連安全保障理事会	「安全保障理事会決議2344」(2017年3月)
国連人権理事会 (UNHRC)	「経済的、社会的及び文化的権利」(2017年3月)
UNHRC	「食糧の権利」(2017年3月)
UNHRC	「全ての人権を享有することにおける発展の貢献」(2017年6月)
UNHRC	「人権分野における相互互恵的な協力の促進」(2018年3月)
UNHRC	「全ての人権を享有することにおける発展の貢献」(2019年7月)

出典：本節の脚注内の各 URL を参照（2020年1月10日までの時点）。

続いて、2月27日には、前出の『人民日報』上に掲載された王毅外交部長による論文が発表された。その題名が「共に人権を促進及び保護し、手を携えて人類運命共同体を構築しよう」とされているように、前月の習近平による演説の重要性を踏まえ、「人類運命共同体」を人権やグローバル・ガバナンスにおける中心的な理念と定める方針が確認された内容であった。その上、中国が人権分野において重要な役割を果たす国家であることを論じ、同国の今までの人権事業における功績を自ら称えて、中国が人権外交やグローバル・ガバナンス政策を一層推進することを表明している³⁸。なお、この

³⁸ 王毅、前掲資料「共同促進と保護人権 攜手構建人類運命共同体」『人民日報 国内版』、頁21。

2月27日は、UNHRC第34回会議がジュネーブで始まるタイミングと重なっていたことから、王毅による論文は、この後から中国がUNHRCで「人類運命共同体」を強調し始めることを示唆するものであった。

その直後の3月1日、UNHRC第34回会議で中国の馬朝旭大使が、140カ国を代表するという体裁で「人権を促進、擁護し、人類の運命共同体を共に構築しよう」と題するコミュニケを発表した。主権の平等性維持や人権問題を政治目的で利用することを控えることなどを強調して暗に西側諸国を牽制しつつ、「人類運命共同体」の構築を呼びかけたのであった³⁹。

同月8日には、中国政府との関係が深い組織である中国人権研究会が、国連ジュネーブ事務局常駐の中国代表団と「人類運命共同体の共同構築：グローバルな人権ガバナンスの新ルート」と題する座談会を共催した。そこには、ロシアやパキスタン、キューバ等といった約20ヶ国の国々からの参加者も出席した。中国側は「人類運命共同体」に関する理解が深まったとして、その座談会の意義を訴えた⁴⁰。

そして、17日には、国連安全保障理事会（国連安保理）のアフガニスタン問題に関する決議の中において、中国政府が進める陸と海の「一帯一路」構想だけではなく、「人類運命共同体」の文言が盛り込まれた⁴¹。この決議が採択されると、中国の劉結一国連大使

³⁹ 「中国、140カ国を代表して人権擁護のコミュニケを発表」『CRI（日文版）』2017年3月2日、<http://japanese.cri.cn/2021/2017/03/02/142s258782.htm>。

⁴⁰ 「中国、人類運命共同体の共同構築を強調」『中華網（日文版）』2017年3月9日、<http://japanese.china.com/news/world/329/20170309/906681.html>。

⁴¹ “Resolution 2344: The Situation in Afghanistan,” UNSCR, March 17, 2017, <http://unscr.com/en/resolutions/doc/2344>.

は、それ以前から国連に関係する決議の中で「一帯一路」が言及されてきた経緯に加えて、初めて「人類運命共同体構築」が国連安保理の決議の中に文言として組み込まれたことは、中国がグローバル・ガバナンスに多大なる貢献を行っている証左であるとして、その意義を強調したのであった⁴²。

続いて、21日のUNHRCにおける「経済的、社会的及び文化的権利⁴³」と「食糧の権利⁴⁴」の2つの決議に「人類運命共同体」の文言が入った。これらは、UNHRCの決議に「人類運命共同体」が盛り込まれた初のケースになった。この出来事についての中国側の反応として、「同理念が決議に盛り込まれたことは、国際社会の共通認識の表れ」と評価し、「同理念を牽引役として、グローバルな人権ガバナンスシステム改革に積極的に参与、リードし、国際人権事業の弛まぬ健全な発展を促したい」というコメントが報じられた⁴⁵。

それにとどまらず、6月には、中国がUNHRCで初めて主導して提出した決議「全ての人権を享有することにおける発展の貢献」が、米国と欧州連合(EU)による反対にもかかわらず採択された⁴⁶。

⁴² 「国連安全保障理事会、『一帯一路』支持の決議を採択」『新華網(日文版)』2017年3月22日、http://jp.xinhuanet.com/2017-03/22/c_136148030.htm。

⁴³ “Question of the Realization in all Countries of Economic, Social and Cultural Rights (A/HRC/34/L.4/Rev.1),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, March 21, 2017, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G17/072/08/PDF/G1707208.pdf?OpenElement>.

⁴⁴ “The Right to Food (A/HRC/34/L.21),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, March 21, 2017, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G17/071/08/PDF/G1707108.pdf?OpenElement>.

⁴⁵ 「『人類の運命共同体』理念、国連人権決議に記載」『CRI(日文版)』2017年3月24日、<http://japanese.cri.cn/2021/2017/03/24/147s259604.htm>。

⁴⁶ “The Contribution of Development to the Enjoyment of All Human Rights

この中にも、「人類運命共同体」の文言が入ったのである。この決議の採択後には、中国の馬朝旭大使が、「人類運命共同体の構築という重要理念に導かれ、中国の提出した『あらゆる人権の享有に対する発展の貢献』決議は、初めて『発展が人権を促進する』という理念を国際人権システムに取り入れ、発展途上国の訴えと心の声を反映して、数多くの途上国を中心に支持を得た。この決議は世界人権ガバナンスに貢献する中国の提案であり、国際人権分野における途上国の発言力及び議題設定権を高め、国際人権事業の積極的な方向への発展を後押しし、先導する」と述べ、中国側は自国の外交的な成果として喧伝したのであった⁴⁷。

なお、「人類運命共同体」と直接関わる訳ではないが、6月のUNHRCでは、人権問題におけるEUの中国に対する結束力に綻びが生じた事例が起きた。近年、ギリシアやハンガリーといった国々が人権問題で中国側の主張に与するような態度を示すようになってきている。この6月のUNHRCにおいて、EUが中国の人権状況を非難する声明を出そうとした。しかし、ギリシアがそれに反対したため、初めてEUがUNHRCで声明を出すことに失敗したのである。ギリシアが中国の人権問題でEUとは異なる立場をとるようになった背景には、同国が債務危機後から中国からのインフラ投資を積極的に受け入れるようになっていたことがあると指摘されている。人権問題において、中国は経済的な影響力をテコとしながらEUの分

(A/HRC/RES/35/21),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, June 20, 2017, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G17/170/16/PDF/G1717016.pdf?OpenElement>.

⁴⁷ 「国連人権理事会が人権を促進させる発展の貢献に関する決議を初採択」『人民網（日文版）』2017年6月23日、<http://j.people.com.cn/n3/2017/0623/c94474-9232449.html>。

断を図っている⁴⁸。

2017年12月、『人民日報』の海外版の一面に掲載されるコラム「望海楼」において、「人類運命共同体は全世界のコンセンサスに」という論考が掲載された。その論考は、それぞれ上述の3月17日の国連安保理における第2344号決議、3月23日のUNHRC第34回会議における2つの決議に初めて「人類運命共同体」が盛り込まれたことは、その理念が国際社会からコンセンサスを得たことだけではなく、中国がグローバル・ガバナンスに大きく貢献していることを意味すると説いている⁴⁹。

2018年になっても、中国のUNHRCにおける外交攻勢が続行された。同年3月のUNHRC第37回会議において、中国が提出した決議が再び採択された⁵⁰。この決議には、「人類運命共同体」の構築のみならず、近年の中国が提唱する新型国際関係に関連する文言が初めて一緒に盛り込まれた。中国の代表団特命全権大使である俞建華は、人権目標を達成するためには国家間でのウィンウィンの関係が不可欠であることに加えて、今日の世界が「人類運命共同体」と化していることをアピールしたのであった⁵¹。この2018年3月は、ちょうど中国国内で第13期全人代第1回会議が開催されていた時

⁴⁸ Ted Piccone, *China's Long Game on Human Rights at the United Nations*, pp. 18-19.

⁴⁹ 「人類運命共同体は全世界のコンセンサスに」『人民網（日文版）』2017年12月29日、<http://j.people.com.cn/n3/2017/1229/c94474-9309815.html>。

⁵⁰ “Promoting Mutually Beneficial Cooperation in the Field of Human Rights (HRC/37/L.36),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, March 19, 2018, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G18/066/67/PDF/G1806667.pdf?OpenElement>.

⁵¹ 徐金泉「聯合國人權理事會通過決議呼吁構建新型國際關係、構建人類命運共同體」中華人民共和國常駐聯合國日內瓦辦事處和瑞士其他國際組織代表團、2018年3月24日、<http://www.china-un.ch/chn/dbtzyhd/t1545540.htm>。

期でもある。この時期においては、中国の憲法に「人類運命共同体」が追記される事情もあったことから、中国の外交関係者としても、「人類運命共同体」を UNHRC の決議に入れることに尽力する必要があったと思われる。とりわけ、「人類運命共同体」には、習近平が政治的なレガシーとして後世に残す意図が含まれていると見られていることから、中国政府関係者としても、その言葉を国内外に喧伝する必要性に迫られていると言える⁵²。

2019年7月、中国が再度 UNHRC で「全ての人権を享有することにおける発展の貢献」の決議を 2017年6月に続いて提出し、採択された⁵³。李松臨時代理大使によれば、2017年に続き、今回の決議は中国による2度目となる重要な決議の提出であり、UNHRC で広範な支持を得ることができた。そして、この決議が採択されたことは、「人類運命共同体」の構築が日増しに受け入れられるようになっていくことを表していると述べた⁵⁴。ただし、この決議には、「人類運命共同体」に該当すると思われる文言は入っていない⁵⁵。なぜ、この決議に「人類運命共同体」が文言として盛り込まれていなかったのかに関しては不透明ではあるが、今後も中国は、人権外

⁵² Denghua Zhang, “The Concept of ‘Community of Common Destiny’ in China’s Diplomacy: Meaning, Motives and Implications,” p. 201.

⁵³ 「国連人権理事会、中国の決議案を採択」『CRI（日文版）』2019年7月13日、<http://web.archive.org/web/20190714030337/http://japanese.cri.cn/20190713/d58970eb-fb68-115c-f423-604ba385ebc9.html>.

⁵⁴ 「聯合國人權理事會再次通過中國提交的『發展對享有人權的貢獻』決議」中華人民共和國常駐聯合國日內瓦辦事處和瑞士其他國際組織代表團、2019年7月13日、<http://www.china-un.ch/chn/dbtzyhd/t1680845.htm>.

⁵⁵ “The Contribution of Development to the Enjoyment of All Human Rights,” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, July 10, 2019, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G19/210/98/PDF/G1921098.pdf?OpenElement>.

交と「人類運命共同体」をセットとして対外政策を実施していくことが予想される。また、先述の通り、同年9月に出された政府白書『人民のための幸福の追求：新中国の人権事業発展の70年』では、国際社会から「人類運命共同体」の理念に対して多くの反響があるとの言及があり、UNHRCなどの決議の中で何度にもわたって「人類運命共同体」が明記されようになったとしつつ、自国の主張が多く の国々から支持されているとの考えが示されている⁵⁶。

以上のように、2017年から、中国は人権外交と「人類運命共同体」というグローバル・ガバナンスに関する理念を合わせることにより、自国の立場や主張を正当化する姿勢を強めるようになっていく。それに加え、中国の国内政治の性格を考慮すれば、同国の政府関係者（特に外交部）としても、習近平の権威や威信と関わる「人類運命共同体」を習自身のレガシーとしてUNHRCのような国際機関の決議の中に盛り込み、そのことを自らの実務面での業績として国内外に示したい目的もあると考えられる。

六 おわりに

ここまでのように、習近平政権下の中国は、「人類運命共同体」というグローバル・ガバナンスに関する新しい理念と人権の概念を組み合わせることによって、UNHRCにおける人権外交を強化するようになっている。冒頭で記した通り、これまで中国の人権外交とグローバル・ガバナンスの理念である「人類運命共同体」とのリンクに関する子細な分析は行われてこなかったが、本稿の意義は、この点を詳しく検討したことにあると言える。

⁵⁶ 「為人民謀幸福：新中國人権事業發展70年」中華人民共和國國務院新聞辦公室。

最後に、この結論部において、中国とリベラルな国際秩序の関係性について簡潔に論及したい。

冷戦後のリベラルな国際秩序の特徴は、冷戦期はその秩序の一員ではなかった中国やロシアを包摂していることである。この秩序の中では、政治的には民主主義、経済的には開放的な体制が強調かつ推奨されている。リベラルな国際秩序の中で中心的な地位を占める米国内においては、政治的な民主主義の普及や経済的な自由化の促進が国際的にも支持を得た目標として見なされてきた⁵⁷。

リベラルな国際秩序における開放的な貿易体制や経済の自由化に関して言えば、中国はその仕組みを基本的に受け入れてきた。その一方、中国共産党による一党支配体制を維持したい中国は、米国が主張する内容の人権や民主主義といった規範を国内政治体制の仕組みに導入することには一貫して抗っている⁵⁸。それでも、G・ジョン・アイケンベリー(G. John Ikenberry)による指摘の通り、冷戦後の中国は米国の覇権には抵抗しながらも、自由かつ開放的な経済体制を擁するリベラルな国際秩序の中で、主に経済面での大きな利益を得ながら台頭してきたことから、その秩序そのものを全面的に覆そうとしている訳ではなからう⁵⁹。

⁵⁷ 古城佳子「アメリカと自由主義国際秩序」『アメリカ太平洋研究』第18号（2018年3月）、53～54ページ。

⁵⁸ Mira Rapp-Hooper, Michael S. Chase, Mataka Kamiya, Shin Kawashima, and Yuichi Hosoya, “Responding to China’s Complicated Views on International Order,” *The Carnegie Endowment for International Peace* (October 10, 2019), <https://carnegieendowment.org/2019/10/10/responding-to-china-s-complicated-views-on-international-order-pub-80021>.

⁵⁹ G. John Ikenberry, “A New Order of Things: China, America, and the Struggle over World Order,” in Asle Toje ed., *Will China’s Rise Be Peaceful? Security, Stability, and Legitimacy* (New York: Oxford University Press, 2018), pp. 33–55.

本稿の議論から判断すれば、西欧諸国とは異なる解釈を加えつつも人権の概念を受容してきた中国が、この先、「中国の特色あるリベラルな国際秩序」の形成に努めるようになる可能性がある。

「一帯一路」構想を推進する最近の中国は、自国がリベラルな国際秩序の擁護者であるという姿勢をアピールするようになりつつある。例えば、中国のシンクタンクであるグローバル化シンクタンク（CCG）の王輝耀理事長は、米国内には中国がリベラルな国際秩序を脅かしているという認識があるが、それは誤りであり、むしろ中国はその秩序に貢献し、かつその質をより高めようとしていると説いている。更には、リベラルな国際秩序の脅威となっているのは、単独主義に傾倒する米国自身であるとも論じている⁶⁰。中国側からすると、米国でのトランプ政権の誕生によって、自国がリベラルな国際秩序を擁護する立場を主張できる余地が広がっていると見えるであろう⁶¹。

冷戦後の中国のリベラルな国際秩序に対する不満は、グローバルな同盟のネットワークのような米国の覇権構造を映し出した安全保障体制や西側諸国からの人権及び民主主義といった政治的価値の受け入れの要求である。中国としては、「一帯一路」構想などに不可欠な開放的な貿易体制や経済のグローバル化といったリベラルな国

⁶⁰ 「炒作『国際秩序中国威脅論』站不住脚：訪全球化智库（CCG）理事長王輝耀」『新華網』2019年5月30日、http://www.xinhuanet.com/world/2019-05/30/c_1124564583.htm。

⁶¹ 例えば、近年の中国が保護主義に反対しながら、貿易や投資の自由化やグローバル化を推進していくことを強調するようになっている点は、トランプ政権の米国を強く意識しているからに他ならないであろう。その主張の好例は、「習近平在第二屆“一帯一路”國際合作高峰論壇開幕式上的主旨演講（全文）」『新華網』2019年4月26日、http://www.xinhuanet.com/silkroad/2019-04/26/c_1124420187.htm。

国際秩序の側面については、「リベラル」な仕組みを保持していきたい。よって、これからの中国は、冷戦後の米国が主導する形のリベラルな国際秩序ではなく、国連や多国間主義を軸とした国家主権を重んじるリベラルな国際秩序を築いていくことを目標にしながら、その秩序の経済的に「リベラル」な側面を残すことを優先にし、西側諸国が主張する政治的に「リベラル」な価値や規範を変革していくことになっていこう⁶²。それゆえ、これからも中国が米国や西側諸国を中心としたリベラルな国際秩序の根幹的な価値である人権を再定義し、それを普及させようと試みる人権外交を引き続き行い、かつ「人類運命共同体」の理念を訴え続けていくことが見込まれる。

今後の中国は、経済面では従来のリベラルな国際秩序の「リベラル」な体制を維持し、かつ政治面では西側諸国とは違う内容の「リベラル」な価値や規範の定着を意図しながら、米国が先導する既存の国際秩序とは異なる様相を呈する「中国の特色あるリベラルな国際秩序」の構築を目指すシナリオを想定することができるのである。

(寄稿：2019年10月30日、再審：2020年1月10日、採用：2020年4月24日)

⁶² Wu Xinbo, “China in Search of a Liberal Partnership International Order,” *International Affairs*, Vol. 94, No. 5 (September 2018), pp. 995–1018.

「具有中國特色的自由國際秩序」？ 習近平政府的人權外交與「人類命運 共同體」之連結

山崎周

（青山學院大學總合研究所助理研究員）

【摘要】

本文探討習近平政府執政下的中國人權外交，及其與全球治理概念中「人類命運共同體」之間的連結關係。自 2017 年以來，中國一直積極參與外交活動，以期將「人類命運共同體」的措辭納入聯合國人權理事會（UNHRC）之決議。從宏觀的角度來看，這背後存在著如中國這樣的新興崛起大國試圖將既有國際秩序與其國內秩序相匹配的動力，而在此背景下，中國正加速人權外交。從中國政治的進程來看，「人類命運共同體」與習近平的個人政治權威和聲望可說是直接相關。因此，中國政府的考量無非是希望將此概念成為習近平的政績，以能夠對國內外宣揚展示。

展望未來，預期中國將致力於改革冷戰後的自由國際秩序。而從本文的討論中，則可設想中國試圖建立「具有中國特色的自由國際秩序」之場景。

關鍵字：人權、人類命運共同體、全球治理、聯合國人權理事會（UNHRC）、自由國際秩序

The “Liberal International Order with Chinese Characteristics”? Human Rights Diplomacy by the Xi Jinping Administration and its Linkage with the “Community of Shared Future for Mankind”

Amane Yamazaki

Research Fellow, Research Institute, Aoyama Gakuin University

【Abstract】

This article considers the linkage between China’s human rights diplomacy and the “Community of Shared Future for Mankind,” which is the concept of global governance promoted by the Xi Jinping administration. Since 2017, China has been actively engaged in diplomatic activities to include the concept of the “Community of Shared Future for Mankind” in the resolutions of the United Nations Human Rights Council (UNHRC). From a macro point of view, this is the dynamism where a rising power, such as China, tries to match existing international order with its domestic order. Therefore, China is accelerating human rights diplomacy. In the context of Chinese politics, the “Community of Shared Future for Mankind” is directly connected with the political authority and prestige of Xi Jinping himself; thus, the Chinese government wants to show both domestically and internationally that the concept is a legacy of the supreme leader and that Beijing will strive to reform the Liberal International Order in the Post-Cold War era. In conclusion, it is possible to assume that China would pursue the “Liberal International Order with Chinese Characteristics” in the near future from this article.

Keywords: human rights, Community of Shared Future for Mankind, global governance, United Nations Human Rights Council (UNHRC), Liberal International Order

〈参考文献〉

「外交部、人権問題を用いた中国の発展への米国の妨害は徒勞に終わる」『人民網（日文版）』2016年4月15日、<http://j.people.com.cn/n3/2016/0415/c94474-9045148.html>。

“Gaikou bu, jinken mondai wo mochiita chugoku no hatten heno beikoku no bougai ha torou ni owaru” [The Ministry of Foreign Affairs; the U.S. Efforts to Interrupt China by Using Human Rights Issues Will End in Vain], *People's Daily Online*, April 15, 2016.

「国連安全保障理事会、『一帯一路』支持の決議を採択」『新華網（日文版）』2017年3月22日、http://jp.xinhuanet.com/2017-03/22/c_136148030.htm。

“Kokuren anzen hoshō riji kai, ‘ittaiichiro’ shiji no ketsugi wo saitaku” [The UN Security Council Adopted a Resolution to Support the ‘BRI’], *Xinhua*, March 22, 2017.

「国連人権理事会、中国の決議案を採択」『CRI（日文版）』2019年7月13日、<http://web.archive.org/web/20190714030337/http://japanese.cri.cn/20190713/d58970eb-fb68-115c-f423-604ba385ebc9.html>。

“Kokuren jinken rizi kai, chugoku no ketsugi an wo saitaku” [The UN Human Rights Council Adopted China’s Resolution], *CRI*, July 13, 2019.

「国連人権理事会が人権を促進させる発展の貢献に関する決議を初採択」『人民網（日文版）』2017年6月23日、<http://j.people.com.cn/n3/2017/0623/c94474-9232449.html>。

“Kokuren jinken rizi kai ga jinken wo sokushin saseru hatten no kouken ni kansuru ketugi wo hatsu saitaku” [The UN Human Rights Council Adopted a Resolution of the Contribution of Development to Promote Human Rights for the First Time], *People's Daily Online*, June 23, 2017.

「人類運命共同体は全世界のコンセンサスに」『人民網（日文版）』2017年12月29日、<http://j.people.com.cn/n3/2017/1229/c94474-9309815.html>。

“Jinrui unmei kyodo tai ha zen sekai no konsensasu ni” [The Community with Shared Future for Mankind Became Consensus among the Whole World], *People's Daily Online*, December 29, 2017.

「『人類の運命共同体』理念、国連人権決議に記載」『CRI（日文版）』2017年3月24日、<http://japanese.cri.cn/2017/03/24/147s259604.htm>。

“‘Jinrui no unmei kyodo tai’ rinen, kokuren jinken ketsugi ni kisai” [The Idea of the ‘Community with Shared Future for Mankind’ was Incorporated in a Resolution of the UN Human Rights Council], *CRI*, March 24, 2017.

「中国、140カ国を代表して人権擁護のコミュニケを発表」『CRI（日文版）』2017年3月2日、<http://japanese.cri.cn/2017/03/02/142s258782.htm>。

“Chugoku, 140 ka koku wo daihyo shite jinken yogo no komyunike wo happyo” [China Presented a Communique on Human Rights Protection on Behalf of 140 Countries], *CRI*, March 2, 2017.

「中国、人類運命共同体の共同構築を強調」『中華網（日文版）』2017年3月9日、
<http://japanese.china.com/news/world/329/20170309/906681.html>。

“Chugoku, jinrui unmei kyodo tai no kyodo kochiku wo kyocho” [China Emphasized the Joint Construction of the Community with Shared Future for Mankind], *China. org. cn*, March 9, 2017.

太田宏「グローバル・ガバナンスと中国：胡錦濤時代と国際公共財のガバナンス」平成24年度中国研究プロジェクト『政権交代期の中国：胡錦濤時代の総括と習近平時代の展望』（日本国際問題研究所、2013年）、113～134ページ。

Ohta, Hiroshi, “Gurobaru gabanansu to chugoku : ko kintou jidai to kokusai kokyo zai no gabanansu” [Global Governance and China : The Hu Jintao Era and Governance of International Public Goods], China Studies Project in the 24th Year of the Heisei Period, *Seiken kotai ki no chugoku: ko kintou jidai no soukatsu to shu kinpei jidai no tenbo [China during a Change of Administration: Overview of the Hu Jintao Era and Prospects for the Xi Jinping Era]*, The Japan Institute of International Affairs, 2013, pp. 113-134.

古城佳子「アメリカと自由主義国際秩序」『アメリカ太平洋研究』第18号（2018年3月）、53～57ページ。

Kojo, Yoshiko, “Amerika to jiyu shugi kokusai chitsujo” [The U.S. and the International Liberal Order], *Amerika taiheiyō kenkyū [Pacific and American Studies]*, No.18, March 2018, pp. 53-57.

習近平『習近平国政運営を語る 第二巻』（外文出版社、2018年）。

Shu, Kinpei, *Shu kinpei kokusei unei wo kataru dai ni kan [Xi Jinping: The Governance of China Volume 2]*, Gaibun shuppan sha, 2018.

納家政嗣「新興国台頭とグローバル・ガバナンス」平成23年度外務省国際問題調査研究・提言事業『新興国の台頭とグローバル・ガバナンスの将来』（日本国際問題研究所、2012年）、1～18ページ。

Naya, Masatsugu, “Shinko koku taito to gurobaru gabanansu” [The Rise of Emerging Countries and Global Governance], The Ministry of Foreign Affairs’s Investigation and Policy Proposal Project on International Affairs in the 23th Year of the Heisei Period, *Shinko koku no taito to gurobaru gabanansu no shorai [The Rise of Emerging Countries and the Future of Global Governance]*, The Japan Institute of International Affairs, 2012, pp. 1-18.

吉川純恵『中国の大国外交への道のり：国際機関への対応をめぐる』（勁草書房、2017年）。

Yoshikawa, Sumie, *Chugoku no taikoku gaikou he no michinori: kokusai kikan he no taio wo megutte [China’s Path to Great Power Diplomacy: Dealing with International Organizations]*, Keiso shobo, 2017.

「中非合作論壇：北京行動計劃（2019–2021年）」中非合作論壇、2018年9月5日、
<https://www.focac.org/chn/zywx/zywj/t1592247.htm>。

“Zhong fei hezuo luntan : Beijing xingdong jihua (2019-2021)” [The Forum on China–Africa Cooperation (FOCAC) : Beijing Action Plan (2019-2021)], The Forum on China–

Africa Cooperation (FOCAC), September 5, 2018.

「中國の人権狀況」中華人民共和國國務院新聞辦公室、2000年1月20日、<https://www.scio.gov.cn/zfbps/ndhf/1991/Document/308017/308017.htm>。

“Zhongguo de renquan zhuangkuang” [Human Rights in China], China's State Council Information Office, January 20, 2000.

「中華人民共和國憲法」中華人民共和國中央人民政府、2018年3月22日、http://www.gov.cn/guoqing/2018-03/22/content_5276318.htm。

“Zhonghua renmin gonghe guo xianfa” [Constitution of the People's Republic of China], The Chinese Central Government, March 22, 2018.

「炒作『國際秩序中國威脅論』站不住腳：訪全球化智庫（CCG）理事長王輝耀」『新華網』2019年5月30日、http://www.xinhuanet.com/world/2019-05/30/c_1124564583.htm。

“Chaozuo ‘guoji zhixu zhongguo weixie lun’ zhan bu zhu jiao : fang quanqiu hua zhiku (CCG) lishizhang wang huiyao” [“China a Threat to Liberal International Order” a Losing Argument : Interview with Wang Huiyao, President of the Center for China and Globalization], *Xinhua*, May 30, 2019.

「習近平在第二屆『一帶一路』國際合作高峰論壇開幕式上的主旨演講（全文）」『新華網』2019年4月26日、http://www.xinhuanet.com/silkroad/2019-04/26/c_1124420187.htm。

“Xi Jinping zai di er jie ‘yidai yilu’ guoji hezuo gaofeng luntan kaimu shi shang de zhuzhi yanjiang (quan wen)” [President Xi Delivers Keynote Speech at 2nd Belt and Road Forum for International Cooperation (Full Text)], *Xinhua*, April 26, 2019.

「為人民謀幸福：新中國人權事業發展70年」中華人民共和國國務院新聞辦公室、2019年9月、<https://www.scio.gov.cn/zfbps/32832/Document/1665072.htm>。

“Wei renmin mou xingfu : xin zhongguo renquan shiye fazhan 70 nian” [Seeking Happiness for People : 70 Years of Progress on Human Rights in China], China's State Council Information Office, September 2019.

「發展中國家與西方國家在人權問題上有哪些主要分歧？」『中國人權』2014年6月12日、http://www.humanrights.cn/html/2014/rqzs_0612/498.html。

“Fazhan zhong guojia yu xifang guojia zai renquan wenti shang you na xie zhuyao fenqi” [What is the Difference of Human Rights Issues between Developing Countries and Western Countries?], *China Human Rights*, June 12, 2014.

「發展權：中國的理念、實踐與貢獻」中華人民共和國中央人民政府、2016年12月1日、http://www.gov.cn/zhengce/2016-12/01/content_5141177.htm。

“Fazhan quan : zhongguo de linian, shijian yu gongxian” [The Right to Development : China's Philosophy, Practice and Contribution], The Chinese Central Government, December 1, 2016.

「聯合國人權理事會再次通過中國提交的『發展對享有人權的貢獻』決議」中華人民共和國常駐聯合國日內瓦辦事處和瑞士其他國際組織代表團、2019年7月13

- 日、<http://www.china-un.ch/chn/dbtzyhd/t1680845.htm>。
- “Lianhe guo renquan lishihui zaici tongguo zhongguo tijiao de ‘fazhan dui xiangyou suoyou renquan de gongxian’ jueyi” [The UN Human Rights Council Passed the Resolution of the ‘Contribution of Development to the Enjoyment of All Human Rights’ Proposed by China again], Permanent Mission of the People’s Republic of China to the United Nations Office at Geneva and Other International Organizations in Switzerland, July 13, 2019.
- 中華人民共和國國務院新聞辦公室、<https://www.scio.gov.cn/zfbps/>。
- China’s State Council Information Office.
- 王毅「進入新時代的中國外交：開啓新航程 展現新氣象」『國際問題研究』（北京）第 1 期（2018 年）、頁 1~12。
- Wang, Yi, “Jinru xin shidai de zhongguo waijiao : kaiqi xin hangcheng zhanxian xin qixiang” [China’s Diplomacy in the New Era : Opening up New Horizons with a New Outlook], *International Studies*, No. 1, Beijing, 2018, pp. 1-12.
- 王毅「沿着中國特色人權發展道路繼續前進：『中國人權新成就（2012-2017）』序言」中華人民共和國外交部國際局主編『中國人權新成就（2012-2017）』（北京：世界知識出版社、2018 年）、頁 1~13。
- Wang, Yi, “Yan zhe zhongguo tese renquan fazhan daolu jixu quanjin : ‘zhongguo renquan xin chengjiu (2012-2017)’ xuyan” [Toward Greater Progress along the Path of Human Rights Development with Chinese Features : Foreword to the Book of New Achievements of Human Rights in China (2012-2017)], The Department of International Organizations and Conferences of the Ministry of Foreign Affairs ed., *Zhongguo renquan xin chengjiu 2012-2017 [New Achievements of Human Rights in China]*, Beijing : Shijie zhishi chubanshe, 2018, pp. 1-13.
- 王毅「共同促進和保護人權 攜手構建人類命運共同體」『人民日報 國內版』（北京）、2017 年 2 月 27 日。
- Wang, Yi, “Gongtong cujin he baohu renquan xishou goujian renlei mingyun gongtong ti” [Work Together to Promote and Protect Human Rights, Advance the Building of the Community with Shared Future for Mankind], *People’s Daily*, Beijing : February 27, 2017, p. 21.
- 李秉新、殷淼「『構建人類命運共同體』首次寫入聯合國決議」『人民日報 國內版』（北京）、2017 年 2 月 12 日、頁 3。
- Li, Bingxin and Yin, Miao, “‘Goujian renlei mingyun gongtong ti’ shouci xieru lianhe guo jueyi” [The Community with Shared Future for Mankind’ was Incorporated in a Resolution of the UN for the First Time], *People’s Daily*, Beijing : February 12, 2017, p. 3.
- 阮宗澤「構建人類命運共同體助力中國戰略機遇期」『國際問題研究』（北京）第 1 期（2018 年）、頁 13~26。
- Ruan, Zongze, “Goujian renlei mingyun gongtong ti zhuli zhongguo zhanlue jiyu qi” [Community with a Shared Future for mankind and China’s Period of Strategic Opportunities], *International Studies*, No. 1, Beijing : 2018, pp. 13-26.

- 徐金泉「聯合國人權理事會通過決議呼籲構建新型國際關係、構建人類命運共同體」中華人民共和國常駐聯合國日內瓦辦事處和瑞士其他國際組織代表團、2018年3月24日、<http://www.china-un.ch/chn/dbtzyhd/t1545540.htm>。
- Xu, Jinquan, “Lianhe guo renquan lishi hui tongguo jueyi huyu goujian xinxing guoji guanxi, goujian renlei mingyun gongtong ti” [UN Rights Body Adopts China-Sponsored Resolution on Mutually Beneficial Cooperation], Permanent Mission of the People’s Republic of China to the United Nations Office at Geneva and Other International Organizations in Switzerland, March 24, 2018.
- 新華社評論員「美國霸權只會讓我們更加衆志成城」『新華網』2019年12月4日、http://www.xinhuanet.com/2019-12/04/c_1125308501.htm。
- Xinhua Commentator, “Meiguo baquan zhi hui rang women gengjia zhong zhi cheng cheng” [The U. S. Hegemony just Makes us Unite Stronger], *Xinhua*, December 4, 2019.
- “Promoting Mutually Beneficial Cooperation in the Field of Human Rights (HRC/37/L.36),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, March 19, 2018, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G18/066/67/PDF/G1806667.pdf?OpenElement>.
- “Question of the Realization in all Countries of Economic, Social and Cultural Rights (A/HRC/34/L.4/Rev.1),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, March 21, 2017, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G17/072/08/PDF/G1707208.pdf?OpenElement>.
- “Resolution 2344 : The Situation in Afghanistan,” *UNSCR*, March 17, 2017, <http://unscr.com/en/resolutions/doc/2344>.
- “The Contribution of Development to the Enjoyment of All Human Rights,” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, July 10, 2019, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G19/210/98/PDF/G1921098.pdf?OpenElement>.
- “The Contribution of Development to the Enjoyment of All Human Rights (A/HRC/RES/35/21),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, June 20, 2017, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G17/170/16/PDF/G1717016.pdf?OpenElement>.
- “The Right to Food (A/HRC/34/L.21),” *The Office of the High Commissioner for Human Rights*, March 21, 2017, <https://documents-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/LTD/G17/071/08/PDF/G1707108.pdf?OpenElement>.
- Chen, Titus C. and Hsu, Chia-Hao, “Double Speaking Human Rights : Analyzing Human Rights Conception in Chinese Politics (1989-2015),” *Journal of Contemporary China*, Vol. 27, No. 112 (February 2018), pp. 534-553.
- Ding, Sheng, “Is Human Rights the Achilles’ Heel of Chinese Soft Power?” *Asian Perspective*, Vol. 36, No. 4 (October-December 2012), pp. 641-665.
- Human Rights Watch, *The Costs of International Advocacy: China’s Interference in United Nations Human Rights Mechanism* (New York : Human Rights Watch, 2017).
- Ikenberry, G. John, “A New Order of Things : China, America, and the Struggle over World Order,” in Asle Toje ed., *Will China’s Rise Be Peaceful? Security, Stability, and Legitimacy*

- (New York : Oxford University Press, 2018), pp. 33-55.
- Inboden, Rana Siu, "Human Rights under Xi Jinping," in Hoo Tiang Boon ed., *Chinese Foreign Policy under Xi* (New York : Routledge, 2018), pp. 174-188.
- International Crisis Group, *Council of Despair? The Fragmentation of UN Diplomacy* (New York/Brussels : International Crisis Group, 2019).
- Kupchan, Charles A., "Unpacking Hegemony : The Social Foundations of Hierarchical Order," in G. John Ikenberry ed., *Power, Order, and Change in World Politics* (Cambridge; Cambridge University Press, 2014), pp. 19-60.
- Lee, Kristine, "Coming Soon to the United Nations : Chinese Leadership and Authoritarian Values," *Foreign Affairs*, September 16, 2019, <https://www.foreignaffairs.com/articles/china/2019-09-16/coming-soon-united-nations-chinese-leadership-and-authoritarian-values>.
- Maizland, Lindsay, "Is China Undermining Human Rights at the United Nations?" *Council on Foreign Relations*, July 9, 2019, <https://www.cfr.org/in-brief/china-undermining-human-rights-united-nations>.
- Piccone, Ted, *China's Long Game on Human Rights at the United Nations* (Washington D. C. : The Brookings Institution, 2018).
- Rapp-Hooper, Mira, Chase, Michael S., Kamiya, Mataka, Kawashima, Shin, and Hosoya, Yuichi, "Responding to China's Complicated Views on International Order," *The Carnegie Endowment for International Peace* (October 10, 2019), <https://carnegieendowment.org/2019/10/10/responding-to-china-s-complicated-views-on-international-order-pub-80021>.
- Roy, Denny, "Human Rights as a National Security Threat : The Case of the PRC," *Issues and Studies*, Vol. 32, No. 2 (February 1996), pp. 65-81.
- Wu, Xinbo, "China in Search of a Liberal Partnership International Order," *International Affairs*, Vol. 94, No. 5 (September 2018), pp. 995-1018.
- Yellinek, Roie, "Islamic Countries Engage with China against the Background of Repression in Xinjiang," *China Brief*, Vol. 19, No. 5 (March 2019).
- Zhang, Denghua, "The Concept of 'Community of Common Destiny' in China's Diplomacy : Meaning, Motives and Implications," *Asia & the Pacific Policy Studies*, Vol. 5, No. 2 (May 2018), pp. 196-207.